

# 生きる力育む指導力向上

霧島・福山高校

## 発達障害、貧困、虐待…教職員が勉強会



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業に取り組む川村琴映教諭(2016年12月、霧島市の福山高校) インクルーシブ教育システムについて学ぶ福山高校の教職員ら(1月19日、霧島市福山)

霧島市の福山高校は、障害がある生徒もいない生徒も共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」の研究に取り組んでいる。昨年10月から、発達障害や貧困、虐待などをテーマにした教職員向けの勉強会を開き、生徒の生きる力を育むため、教職員の資質向上や指導力の充実に目指している。



1月19日夜、福山高校の校長室。8回目となる勉強会に教職員9人が集まった。この日のテーマは発達障害。スクールカウンセラーで臨床心理士の佐々木浩介さん(24)が講師を務め、呼吸、感覚、姿勢といった発達の根底となる土台部分の上に、言語や学習などの能力が育つとの考え方に基づいて、発達障害を説明した。教職員からは「発達障害

ある人、ない人共に学ぶ」と話している。障害者が精神的および身体的な機能などを最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にすることを目的とする。一般的な教育制度から排除されず、一人一人に必要な合理的配慮を提供することなどが必要とされている。

### 障害ある人、ない人共に学ぶ

Q インクルーシブ教育システム

障害のある人と、ない人が可能な限り共に学ぶ仕組み。国が2014年1月に批准した障害者権利条約で提唱され

は治らないものだと考えていたが、認識を改めた」との声が上がった。

「発達障害に対する新しい視点を持たせたい」と話すのは、数学科担当の寺尾博信教諭(33)。最近では、板書をノートに写せない生徒も目立つという。生徒の反応を細かく観察しながら授業を進めることが大切だと思っただと語った。

### 家庭科担当の川村琴映教諭

少子化社会で、特別支援教育の対象となる児童生徒は増加傾向にある。文部科学省の資料によると、2014年度特別支援学級在籍者数は18万7100人で、10年前に比べて倍増した。文科省は、国が14年1月に批准した「障害者権利条約」を踏まえ、インクルーシブ教育システムの構築を推進している。

そんな中、18年度からは「通級による指導」が高校でも新たに制度化される見込みだ。大半の授業を通常の学級で受けながら、障害による学習上、生活上の困難を改善・克服するために、中学校で通級指導を受けている生徒が年々増加し、卒業したほぼ全ての生徒が高校に進学していることが背景にある。

牧陽一校長は「教育を取り巻く環境が劇的に変化していく中で、しっかりと対応していくためには、教員がどれだけの情報を得て、準備しておくかに尽きる」と強調する。家庭科担当の川村琴映教諭(36)は昨年10月以降、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を3回実践。プロジェクターやパワーポイント、プリントなどを活用し、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりに取り組んだ。

(山下翔吾)